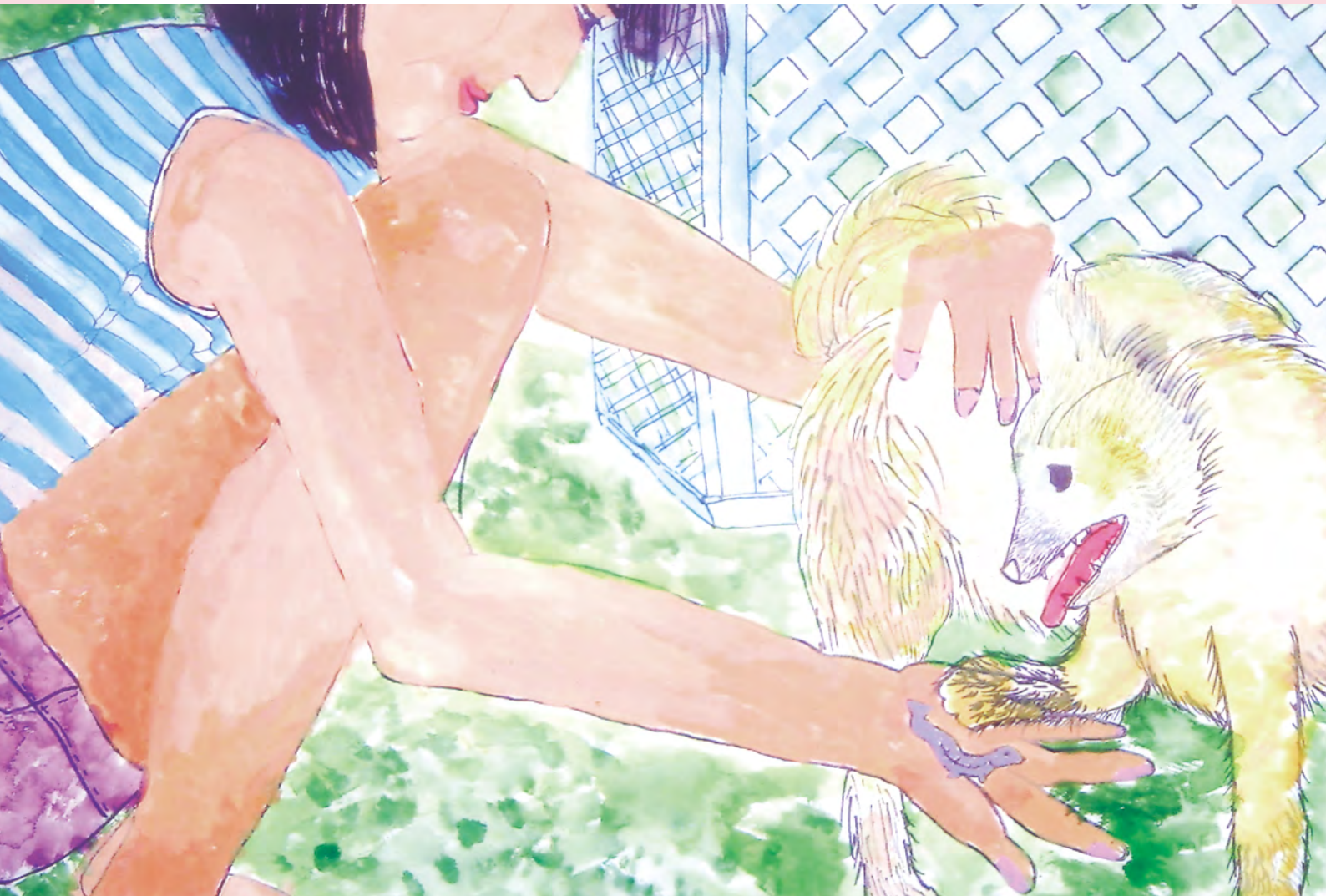


ふれあって **絆** ほほえんで
きずな



目次

子犬の地域譲渡会.....	2	猫について考えよう.....	5
愛護教室一宗像支部.....	3	犬のしつけワンポイントアドバイス.....	6
愛護教室・キャンペーンー鞍手支部.....	4	編集後記.....	6
犬のしつけ教室一粕屋支部.....	4		

子犬の地域譲渡会 しあわせかな～? わんこたち!



現代社会において、人間と犬との関係は切り離せないものとなっています。盲導犬や聴導犬・介助犬などのアシスタントドッグ。また、警察犬や麻薬捜査犬、災害救助犬などの訓練犬など。人間の社会に対し、とても大きな役割をになっています。それだけではなく、家庭の中でペットとして、飼い主を癒し、元気づけてくれ、毎日とても楽しませてくれる『家族』としてかわいがられています。

しかし、これだけ人間に『力』をあたえてくれ家族として生きている犬達がいるそのウラでは、誰からも愛してもらえず、優しさにふれることもできず、この世を去っていく犬達がいることを知っていますか?そしてその現場で懸命に働いている人々がいることを・・・。

犬を動物管理センターにつれて来るその理由は、吠えてうるさい、仔犬が産まれたから、などに自分勝手な理由で怒りさえ感じます。そんな人間側の都合だけで、尊い『命』を失わないために、これから犬を飼う予定の方は、本当に犬の『命』を守っていく覚悟があるか考えてください。そして、今犬を飼っている方は、かわいい犬の仲間達の『命』を守るため、自分に出来る事を考えてください。そうすれば大切な『命』を救えるのではないのでしょうか?

動物愛護推進員 中村



2003年度(1月現在)に不用として福岡県の動物管理センターに集められた犬の数5604頭の内、子犬が2491頭でした。これはほとんどが普通の犬好きの人から出された犬たちです。決して可愛いか可哀想という理由だけで、子犬を求めないでください。その願いを込めて、子犬の譲渡を希望する方には「事前講習会」を受講されることを義務づけております。よろしくご理解ください。

譲渡会のご案内

●(財)動物管理センター 子犬の譲渡会 毎月第2水曜日

*5月・10月の譲渡会は第2土曜日に実施します。

*前週第1水曜日の事前講習会を受講した人に限る

*要予約 (財)動物管理センター Tel.092-944-1281

●地域譲渡会 開催予定日 (各)保健福祉環境事務所

(京築) 6月23日 (粕屋) 7月28日 (久留米) 8月25日 (鞍手) 9月22日

(筑紫) 10月27日 (八女) 11月24日

*あくまでも予定です。また、事前講習会が必須となりますので、必ず各保健福祉環境事務所か動物管理センターへお問い合わせください。(しつけ教室も行っております。お問い合わせ下さい)



宗像支部

第9回宗像動物ふれあい広場

●宗像支部の報告●

～動物と友達になるために～

動物とのふれあいを通じて動物の習性を理解するとともに、生命を尊重する心を育み、もって、動物とのよりよい関係が一層、確立されることを趣旨として開催しました。

平成15年10月12日 日曜日

JAむなかた大ホール(場所は毎年変わります)にて

- 長寿動物表彰(15歳になる犬猫の表彰)
- ふれあい会議 =エンゼルペットクリニックの名越先生の基調講演
- 糞害防止キャンペーン
- ペットスケッチ展示
- 犬のしつけ教室
- うさぎとのふれあいコーナー
- 犬とのふれあいコーナー
- 乗馬体験コーナーと、内容は盛りだくさん毎年開催されてます。来なきヤソン!!



やさしいつだね



ペットスケッチ展示賞をもらった5年生の中村君をつかまえてパチリ!おめでとう!!



宗像動物ふれあい広場は宗像の獣医さんたちが立ち上げて、お役所の方と力をあわせ、推進員も加わり脈々と9年続いた行事となりました。推進員として2年お手伝いを経験しました。なかなか聞けない裏方のお話をしましょう。

前日夕方に集まり会場作りをしました。お役所の職員さんと推進員を除いては、あっちをむいてもこっちをむいても私服の獣医さん。総勢15名の獣医さんが力をあわせる姿は圧巻でもあり感動でもあり、ちょっと可愛い(失礼)。白衣じゃないからわからない人はわからない、そっちのお兄さんもどっちのおぢさん(えへへ)も獣医さん。会場を使用していた子どもが叫びました「わあ獣医さんがいっぱい!なんがあると!?!」すかさず宣伝活動に入る関係者有志一同。「明日ここで、動物ふれあい広場があるとよ、みんなを誘って来てね」

本当のところは春から計画に入り、会議を何度か重ねここまで盛り上げた担当者のKさんが一番の功労者です。もう一つの裏話は、私たち推進員で、ぬいぐるみの中に入るといふ体験をしました。一度入ってみたかったぬいぐるみ、わくわくして、汗だくになってもいいように軽装の準備をしていざ参戦!!顔が見えないんだ、うんとはじけてやれと、もくろんでいました。が、重いのと視界が悪いのとで、誘導してくれる人がいないと歩きにくいものです。子供は意外と怖がるので、小さくなったりして。でも、知らない人でも大喜びで手をつないでくれました。若いハンサムな男性は手をつないでくれませんでした、爆。毎年毎年、関係者は頭を絞って楽しいことを考えています。お近くの方は是非のぞいてみてください。

愛護教室



小学5年生のお友達に、不幸な犬をこれ以上増やさない方法を考えてもらったり、咬傷事故がおきない犬のさわり方の寸劇を見てもらいました。実際、モデルの犬でさわり方の練習をした子どもも何人かいました。子ども達の感想は、犬のさわり方を知らなかった、知って良かったというものも多く、愛護教室の必要性を感じました。



キャンペーン



動物愛護週間に直方市の商店街でチラシ配りをしました。午後からだったので、人が思ったより少なく、行ったり来たりと同じ人に渡すことになったり、犬猫を飼っていないからいらぬと言う人もいましたが、快くもらってくれる人が多く、あっという間に配り終わりました。

初めての試みでしたが、来年度は場所を変えて、老若男女を問わずに利用する駅前などで、もっとたくさんの人に啓発できる様にしたいと話し合い、今後も意欲的に取り組みたいと思います。



犬のひつけ教室

粕屋町役場にて、11月30日に開催しました。

18名の受講者がありました。

教室のモデルとなった犬が大型犬から小型犬までそろっていて、「自分の犬と照らし合わせて考えられた」という意見が印象的でした。



インストラクター より

「犬の気持ちなんて考えたことがなかった」「私がしっかりして犬を守ってあげなければ」「根気があるなあ」「人間の子供のようにほめてしつけなければ」「大声でなくても犬は言うことを聞いてくれるし、犬は頭がいいんですね」…など、参加者からたくさんの感想をいただきました。犬を「守り育てる」ということは、だれもができることです。もっとわかりやすく、もっと気を楽しんで、じっくりと時間をかけてやっていきたいものです。みなさんのその【心】がやがて相手のことを認め合う、思いやりのある社会を育てていくのです。

動物愛護推進員 紀平





猫について考えよう



猫を飼ったことがある人は、犬とは違った何とも言い表せない魅力を、よく理解できると思います。これは飼ったことがある人にしか言い表せない魅力なのです・・・



室内飼いのすすめ

猫の飼い方は、昔も今も「自由飼い」という、家の中と外を自由に行動できる放し飼いが主流です。しかし現在の環境は猫にとって住みやすい環境ではありません。自由飼いは飼い主の目の届かないところでは何をしているのか全く判りません。他人の家の庭や畑などで排泄をしたり、イタズラをしたり、発情期には大きな鳴き声で迷惑をかけます。そのために虐待を受けるかもしれません。また、交通事故で命を落としたり、猫同士の喧嘩で酷い怪我をしたり、伝染病を移されたり、家庭にノミやダニ等の外部寄生虫を持ち込んだりもします。現在では〔猫エイズ〕という治療法の見つからない伝染病が広がっていて、自由飼いの猫にとっては感染の確率が高いのです。それに不妊・去勢手術をしていない猫たちによって子猫が生まれ、野良猫となったり、保健福祉環境事務所（旧 保健所）に持ち込まれたり、結果的に不幸な猫を増やしてしまうこととなります。室内だけでは可哀相だと思われるかもしれませんが、子猫の時からもちろん成猫になってからも、その習性に充分配慮してあげれば、ワンルームマンションの室内だけの縄張りでも満足し、ストレスになるようなこともありません。室内飼いにするとう世話が大変になるかもしれませんが、大事な家族である猫ちゃんのため、周りの人に迷惑をかけないために、室内飼いをおすすめします。

猫の習性

猫は夜行性で単独行動を好む動物で、1日の大半を眠って過ごします。猫の行動パターンは、食事と排泄、テリトリー内の偵察が主となり、テリトリー内では尿スプレー・爪研ぎ・擦りつけといったマーキングを行います。通常は、このテリトリー外に出ることはありませんが、発情期にはパートナーを求めテリトリー外に出て、そのまま家出してしまう事もあるようです。この発情期には食事もせずパートナーを探し回り、大きな声で鳴き続けますが、これらの行為は、早期の不妊・去勢手術により、ほとんど無くなります。また木登りや屋根の上など高い場所、床下や屋根裏、路地裏の暗くて狭い場所なども好み、動く物が大好きで狩りをしたり遊んだりします。



猫を室内飼いにするには

1. 不妊・去勢手術を行う。
2. 日当たりのよい場所を提供し、窓から外を見れるようにしたり、自然の日光や風などが取り入れられるように工夫し、猫が安心して快適に過ごすことのできる環境を作ってやる。場合によっては、用意してあげた場所より、猫自身が安心して休息する場所を、自分で探し決める場合もある。
3. 広さよりも、ジャンプなどの上下運動ができる空間を作ってやる。
4. 猫の行動を観察しながら、慣れるまではソツとしておく。
5. 台所などの火を扱う場所や、風呂場、トイレなどの水回り、ベランダからの落下、電気コードやストーブ、有毒な観葉植物などの危険な場所や物を調べ、事前に予防をして事故を防ぐ。また、戸の開け閉めの際に挟まれたり、裁縫道具やタバコなど口に入りやすい小さな物にも注意が必要。
6. イタズラされて困る物や、進入されたり上がられて困る場所などは、事前にガードしておく。
7. 猫のトイレはこまめに掃除をし、清潔に保つ。長時間留守にする場合は、トイレを2個以上置いてあげるとよい。用意したトイレで糞尿をしない場合は、猫にとってトイレの場所が落ちつかない場所だったり、砂の素材が気に入らない場合がある。
8. ストレス・運動不足の解消に、猫じゃらしなどで一緒に遊んであげ、スキップを充分にとってやる。
9. 好奇心旺盛で活発な猫は、胴輪・リードをつけて散歩に連れ出してやる。ただし、子猫の時から慣らしていない子や、神経質・臆病な子は、いきなり連れ出すとパニックを起こしてしまうので注意が必要。
10. 爪とぎ器、猫草、ブラシなどの必需品も揃えておくとう便利である。
11. 留守中のイタズラや事故が心配であれば、猫用のケージを利用する。

簡単に猫の習性と室内での飼い方を書きましたが、これらの事を十分に理解して、環境を整えてあげれば、猫の室内飼いは可能です。これから子猫を飼われる方は、ぜひ室内飼いを実行して下さい。現在、自由飼いをされてる方、猫は変化に敏感ですが、それなりに新しい環境を受け入れることのできる動物です。室内飼いに不安を感じる方もいらっしゃるでしょうが、難しく考えず、猫ちゃんと安心して幸せな生活を考えよう。

推進員M

犬のしつけ **ワン** ポイント

アイコンタクト



飼い主とわん。美しい絆の第一歩はキラキラの目のアイコンタクトから



アイコンタクト：飼い主と犬の目が合うことです。良いリーダー（飼い主）はいつも犬に注目されます。

アイコンタクトを教える方法：①犬の好きな食べ物（ご褒美）を手に持ちグーを作り、犬の鼻先から飼い主の目にグーを移動させ、犬の視線を誘導します。目が合ったら「そうよ、グッド」と誉めながらご褒美をあげます。②グーをからっぽにして、同じく犬の視線を誘導し、目が合ったら誉め、他の手からご褒美を出します③ご飯の「待て」の時、目が合ったら「オーケー」を出します④おもちゃを渡すとき目が合ったらあげます。⑤犬にとって良いこと遊ぶことを開始する時は、いつも目が合った瞬間にします。

ポイント犬の目を覗き込まないように、犬が自ら飼い主を見るよう心がけ誘導します。犬が恐怖や緊張感を持っている時は、白目が多く出ています。白目が多く黒目が安定していないときは、方法を考え直しましょう。食べ物を使っても、飼い主さんが機嫌が悪かったり言葉がきついと犬は楽しくありません。毎日楽しい気持ちでトレーニングをし、アイコンタクトは毎日しましょう。飼い主さんの機嫌や体調がすぐれない時は、思い切ってトレーニングを中止しましょう。

写真提供：宗像ポチクラブ

飼い主さん大好きな犬を育てる②

犬のしつけというのは、人間が一方的に犬をおさえつけるものではありません。人と犬との関係＝絆を育てていくものです。飼い主と犬がいっしょにいる姿が他の人へ不快感を与えないことが大切です。二つの寄り添う影が平和で美しいもの、しつけ＝躰という字は、身が美しいと表現されます。そう考えたら、子どもを育てるのも、犬や猫を育てるのも共通点がとても多いものです。子どもや動物の心を育てあげ、気づいたら自分自身も育っていたと思える過程が躰です。

例えば、3～5ヶ月の仔犬がいたとします。他の仔犬にマウンティングをしたり喧嘩をしかけたり、咬む力の加減がわからなかったとします。友好的に遊ぶことをせず、優位にたつことばかりを学んでいます。社会性という面で注意信号です。そういう時私は飼い主さんに「勝ち癖ばかりついても先々困るかもしれないから、できた大人の犬に会わせてくださいね」とお勧めします。そしたら、「そうね、一回ギャンと言わせてもらえばいいね」と答える人は大変多いです。何か問題がありそうなときに「ギャン」と言わせれば犬が変わると思う人、またそこまでして犬を変えたいと思っている人が多いのです。これを間違ったタイミング間違った頻度でおこせば、犬と飼い主の関係自体がゆがむでしょう。飼い主さんがあまり好きでない犬が育つこと請け合いです。

「できた大人の犬」はいつもこういう手段で仔犬を変えようとはしません。かもし出す落ち着いたオーラや無視をたくみに使い、仔犬が自らお腹を出すようにしむけます。逆にできていない「暴力でのみ犬をひれ伏させる」大人の犬にギャンとやられた場合、一生犬なんかいやだと思ってしまうかも知れません。それほどトラウマが残らない仔犬のうちに経験をすることも一つですが、必ずしなければならぬ経験でもありません。できれば、子犬自らお腹を出して相手に敬意をはらう形の経験を早めにさせてあげましょう。

人と犬の関係もまったくその応用です。仔犬の時から、自然にお腹を出したくなるような安定した関係を築いていけば、大人になってあわてておさえつけ「ギャン」といわせる必要はまったくありません。やさしくハンドリングすることで、その関係を作ることは可能なのです。

推進員Z

福岡県動物愛護推進協議会HPアドレス：<http://www.fukuoka-douai.jp/index.htm>

編集後記

∞創刊号から一年がたち、自分自身色々なことを見たり、お手伝いさせていたたりと沢山のことを勉強することができました。その経験をこの推進員ニュースに少しはいいかせたと思います。

推進員N

∞第2号ができました！！推進員になって、更に「犬のしつけ」に感心を持ち、動物管理センターで教えてもらった陽性強化法を実行したら犬を叱ることもなく、犬の性格も確実に変化し共に楽しく生活できるようになりました。飼い主が変われば犬も変わる！みなさんも家族の一員である愛犬と楽しく幸せに暮らすためにぜひ実行してみませんか。

推進員M

∞「我を忘れて」ここまで来てしまいました。これぞ、ポランティアの王道？自画自賛するより前に考えるべきことがある。そこに動物がいるから・・・頭でっかちになっていく前に、常に問いかけていたい。「私の動物たちは幸せ？」それだけではどんな専門家でも動物好きでも忘れてほしくないものです。

推進員Z